

目 次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一
東京大学教授 文学博士 佐藤信

第一章 近代化へのスタート

第一節 農林業

一 地租改正

村にも新しい行政の区画が 合併して大きな村に 共同体としてのむらの存続 土地は農民のもの
王申地券 地租改正の経過

二 生産のしくみ

農地の所有状況 山林原野は村から遠くに 村人の仕事 村人の生活 稲作と養蚕

三 むらの山 (共有林野)

大事なむらの山 林野の地租改正 入会地として残った山林原野 荒れる林野 官民区分の見直し運動

第二節 漁業

一千曲川と漁業

河川解放と鑑札制度

『長野県町村誌』にみる地区漁業

明治初期の漁具・漁法

盛んであつた千曲川のさけ漁

千曲川のつけば漁

築漁に免許

塩尻村の漁業

養殖漁業のはじまり

盛んになる養鯉業

稻田養鯉のはじまり

第三節 工業

一 村の工業

村人の仕事

生糸と織物の生産 農蚕業用具と蚕種用材料

二 町の工業

盛んな上田町の工業

常入村の職業調べから

三 近代工業への模索

新しい器械座縫を求めて

生糸改会社

器械製糸の試み

大規模な織物工場の設立

器械製糸拡榮社の創業

上田蚕糸組合と生糸同業組合

信陽館製糸場の設立

第二章 新しい産業の始動

第一節 農業

一 新しい農業技術と農会

新しい農業奨励の共進会

老農技術の奨励

勧業会と農談会を通しての普及

農事試験場の研究技術も

農会の設立

二 自然災害とため池・用水路

自然災害 ため池の利用 用水の分布と活用

三 産業組合

農民を守る産業組合 産業組合の広がり

第二節 林業

一 変わる山林原野

厳しくなる官林の管理 山を緑にする部分林方式 殿城村の部分林 傍陽村外十か村の部分林組合

二 官林払い下げ運動

上田小林区署 官林を払い下げ桑園づくり 殿城山の官林払い下げ 田沢山の官林払い下げ

小牧山の官林払い下げ

三 財産組合の誕生

長村外九か町村財産組合 青木村外三か村財産組合

第三節 工業

一 常田館

器械製糸工場の広がり 上田へ進出した笠原組 常田館の優れた立地

二 在来工業

蚕貝生産の発達 盛んな酒造り 味噌は早くから商品化 飴・窯業・経木 鋳治と鋳造

盛んな印刷業

第三章 全盛期を迎える蚕業

第一節 農業	55
一 蚕さまざま	55
二 築堤と用水路の整備	55
三 蘭糸会社の設立	55
四 小作農と農民組合	55
第二節 林業	70
一 林業経営への取り組み	70
二 区有林の統一と官行造林	70
三 新しい林業経営の方向	70
四 私有林の経営	70
五 進まない区有林の統一と官行造林	70
六 官行造林を通し造林活動を	70

	第三節 工業	74
一 新しい製糸業の展開	生糸の品質を高めるために	上田の製糸業
二 変わる器械製糸	変わる生産体系	原料繭の確保のために 新しい煮繭方法 繩糸技術の進歩 早くから蒸氣を使って
	製糸工女確保に奔走	工女の生活と工女の構成
三 座縄製糸の動向	農村工業の衰退	座縄生糸の増加 停滯する織物業 減っていく染物業
	第四章 大不況から十五年戦争	78
	第一節 農業	75
一 旱ばつと霜害	旱ばつと干害 たびたびの霜害	83
二 世界恐慌と農村救済	世界恐慌のはじまり 農村の救済へ	83
三 更生運動	農家の経済更生 養蚕からの脱出 浦里村の取り組み	86
四 満州移民	海外移民の動き 満州移民の推進 青少年義勇軍	91
五 村は軍需物資の補給地		92

動員される人々

国民徵用と産業報国会

青少年の勤労奉仕

増える物資の調達

六 食糧増産への取り組み

農業生産推進の組織

農業生産の状況

新しい用水路づくり

第一節 林業

一大不況の中の林業

養蚕の目減りを林業で埋める

上田小林区署の山村救済事業

失業救済として林道開発事業

97

二 戦時体制下の林業

木炭組合と木炭生産

木材生産と森林組合の結成

木製の飛行機の部品作り

木炭自動車に使う木つころ

山は資源の宝庫

第三節 漁業

一 新しい組織への動き

上小漁業組合の設立

鮎養殖のはじまり

水産試験場の設立

101

二 千曲川さけ漁のえん焉

ダム建設とさけ漁

戦時下の漁業

103

第四節 工業

一 工場倒産と技術革新

世界恐慌と製糸業

不況の中での技術革新

不況を乗り切る常田館

105

二 工場の誘致

地方経済の建て直しへ

鐘紡の誘致

鐘紡上田工場の建設と工場設備

招致工場への優遇措置

106

農村でも工場設立の動き

農村でも工場設立の動き

農村でも工場設立の動き

95

三 産業統制

企業整備へ 軍需工場への転換

四 軍需工場の誘致

軍需工場を積極的に招致 市の手で進める招致工場の建設

五 疎開工場及び転換工場

上田へ来た軍需工場 軍需工場の生産体系 労働者を確保するために 学生の動員体制 秘密の工場

地下工場の建設

第五章 戦後復興の中で

第一節 農業

一 終戦直後の村

やみ売買も仕方ない世相 やみ景気でうるおう人々 農家の言い分 やみの消滅

二 食糧危機と農業生産

食糧増産に取り組む農村 米の供出と農家 神科村の農業 神川村の分村嬬恋開拓地 農業経営の変容

三 農地改革

農地改革と農地委員会 上田地区の農地改革 農地改革のその後

四 相次ぐ洪水

昭和二十年の水害 昭和二十五年の水害

五 ため池と農業用水路

ため池の改修 沢山池を温水ため池に 依田川用水路の完成 農業用水路の役割の変化

第二節 林業

一 食糧を求めて山へ・

食糧を求めて山へ押しかける

豊富な山の副林産物

二 山林所有と木材生産

山の持ち主 零細な私有林の持ち主

木材は国有林と公有林で

増えるはだか山

三 緑化への取り組み

採種から苗づくりまで 県民運動による植林の推進

本格的な植林の開始

森林法の改正と造林活動

135

134

133

第三節 漁業

一 河川漁業と稻田養鯉

再発足の上小漁業組合 発展する養殖漁業 あゆの池飼い養殖

稻田養鯉のおわり

138

二 塩田鯉の養殖

塩田鯉のはじまり ため池での養鯉の特色 塩田鯉の流通

140

第四節 工業

一 平和産業への転換

平和産業への転換を急ぐ工場 すさまじいインフレの中で 賠償指定と戦時補償打切り

143

二 厳しい状況の中の工業生産

工業の構成が大きく変化 厳しい電力制限

143

三 多発する労働争議

すすむ労働組合の結成 日本無線の争議 鐘淵通信工場とたばこ工場誕生

145

四 工業生産の再生

148

ドッジラインと企業の經營 三六〇円の為替レート 課稅の強化 超均衡予算

五 朝鮮戰争と特需：

特需景氣 若者の大都市への流出

六 工場誘致：

財政難に苦しむ上田市 県の工場誘致条例 上田市の工場誘致条例 力を入れた工業育成事業
工業立地環境調査

第五節 建設業

一 戰前の建設業

建設業のスタート 建設業の構成 建設業者の誕生 建設業の組織づくり 戰時下の建設業

二 昭和二十—三十年代の建設業

建設業の再スタート 人手にたよる建設作業 建設作業に機械を導入

三 主な土木・建築工事

(1) 上田小県地方の河川と治水

上田小県地方の河川の特性 千曲川の洪水 千曲川の堤防復旧工事

(2) 生活の基盤づくり

住宅建設は市や県で 学校の新築改築フツシユ

(3) 道路と生産基盤の整理

国道の改良工事 国道のバイパス 市街地道路の拡張・整備 食糧増産のための土地改良

第六節 水道・ガス・電気

一 上水道：

上水道の新しい水源

二 都市ガス

地元資本の上田ガス 戰後のガス事業

三 電気

中部電力の誕生 メーターの取り付け 工事はすべて手作業

第六章 経済成長期の中で

第一節 農業

一 変わる農業生産

(1) 機械化の進む米づくり

(2) 飛躍的に増えた米の収穫 進む農作業の機械化

(3) 国光・紅玉からふじへ

(4) りんごブームに沸く農村 共同選果と共同出荷 国光・紅玉からふじへ

(5) 大型化の進む畜産

(6) 経営規模が拡大する畜産 石油危機と農業経営の悪化 規模拡大を目指して

(7) 産地形成に取り組む野菜・園芸

(8) 野菜の産地化を目指して 伸びる花き園芸

(9) 養蚕業と薬用人じんの栽培

(10) 姿を消す養蚕業 全国一の薬用人じん栽培

二 変わる農家

(11) 急速に進行する兼業化 神川地区にみる兼業化の進行 兼業に伴う問題 進まなかつた規模拡大

三 生産基盤の整備

農業改善事業　かんがい排水事業　ほ場整備事業　農村環境の整備

四　米の生産調整と農地の減少

　　米の生産調整　　うまい米作りと機械生産の体系　農業の請け負い耕作　少ない農地の移動

第二節 林業：

一 燃料革命

薪炭づくりは農家の副業で　燃料革命の急速な進行

二 木材の自由化

急速な森林伐採　林業での技術革新　すすむ奥地の森林伐採　木材の自由化で外材が増加

第三節 工業：

一 機械金属工業への集中

工業団地づくり　機械金属工業の集中　中核工場と下請け生産体系　生産技術の目覚ましい向上

二 自動車部品工業の展開

輸送機械工業の出発　アート金属工業(株)　株城南製作所　日信工業(株)　自動車生産の新しいしくみ

三 機械工業の発展

進む技術革新　オルガン針(株)　株ミヤノ　長野計器(株)

四 電気機械工業の展開

電気機械工業が上田の主力に　上田日本無線(株)　山洋電気(株)　東京特殊電線(株)　日置電機(株)

シナノケンシ(株)

五 食品工業の発展

大手工場による特色ある製品　日本たばこ産業(株)　信州ハム(株)　エスビー食品(株)

発展する食品の地場産業

六 工業の発展と公害問題

公害の発生 市に公害課を設置

第四節 建設業

一 建設業界の動き

建設業の変化 組織の拡大

二 主な土木・建築工事

(1) 千曲川の堤防改修

丈夫な堤防づくりの計画 堤防の改修工事

(2) 公共施設と住宅団地

市の公共施設 学校建築 運動施設 国・県の公共施設 住宅団地の造成

三 交通・生産基盤の整備

(1) 道路の整備

市街地の道路整備 地方道の整備 国道の排気ガス粉じんの測定 国道一八号線の上田バイパス

(2) 生産基盤の整備

農業構造改善事業 上田卸団地の造成

第五節 水道・ガス・電気

一 上水道

市営上水道の拡大 県営水道

二 都市ガス

天然ガスへの切り替え 上田ガスの立地

LPガスの普及

LPガスの普及

三 電気

消費が伸びるLPガス

第七章 國際化の中での

第一節 農業	217
--------	-----

一 農産物の輸入自由化

輸入食糧の自由化と影響 円高の進行と農産物 農産物輸入と価格競争

二 これから農業を求めて

(1) 農業の現況

減少する農業生産

(2) 農地と担い手の行方

農地の保全とその行方 農業の担い手の行方 認定農業者制度

(3) これから農業像

農業の再生を願つて

第二節 林業

一 手の入らない山

里に出てくる野性動物 山の持ち主が分からぬ 広がる松くい虫の被害

二 國際化の中の国有林

少なくなつた市内の国有林 営林署から森林管理署へ 時代に対応した事業を

三 林業再生の道

複層林にする努力 新しい組織での取り組み 山では木が成長している

第三節 漁業

一 衰退する養殖漁業

塩田鯉の崩壊過程

あゆ養殖の終わり

二 現在の千曲川漁業

観光化した漁業 千曲川のあゆ漁

上田の名物つけば

その他の漁法

カムバックサーモン運動

231

230

230

第四節 工業

一 技術革新と新しい工業団地

進む技術革新 周辺地域への工場の拡大

新しい工業団地の造成

浅間テクノポリス

リサーチパークへ進出した工場

235

235

235

二 製造業の海外進出

製造業を中心には海外進出 自動車工業の東南アジア進出

自動車工業のアメリカ進出

広がる海外シフト

家電メーカーの海外進出 海外でのOEM生産

海外進出と産業の空洞化

240

240

240

三 外国人労働者と上田の工場

増加する外国人労働者 狹くなる労働力市場 工業発展へのさらなる努力

244

第五節 建設業

一 建設業界の動き

急増する公共事業 低成長期の建設業

246

246

246

(1) 自然災害と治水

五十年以降にみられる洪水

千曲川堤防の改修

247

247

246

(2)	公共・施設と住宅建設	市や県などの公共施設	変わる住宅建設					
三	生産基盤の整備	工業団地の造成	電線の地中化と歩道の整備	上田駅温泉口の整備	上田駅前（お城口）の再開発	248		
四	交通網の整備	地方道の整備	環状道路の実現に向けて	国道一八号線の整備	下塩尻地区の岩石崩落の観測	排水性舗装の国道	上田・篠ノ井バイパス	250
(1)	地方道の整備	環状道路の実現に向けて	国道一八号線の整備	新幹線と高速道路	北陸新幹線	関越自動車道上越線		250
(2)	環状道路の実現に向けて	国道一八号線の整備	下塩尻地区の岩石崩落の観測	新幹線と高速道路	北陸新幹線	関越自動車道上越線		250
(3)	新幹線と高速道路	新幹線と高速道路	排水性舗装の国道	上田・篠ノ井バイパス	上田駅温泉口の整備	上田駅前（お城口）の再開発		250
第六節	水道・電気							
一	下水道							
二	電気							
	質のよい電気と安定した供給							
第八章	新しい産業立地へ							
新しい産業の動きを追つて								
国際化の中での苦戦する各産業	AREC設置と事業展開	斜陽の産業から学ぶ						
259	255	253	253	253	251	250	250	248

執筆分担

参考文献

あとがき

上田市誌の編さん組織

『上田市誌』全三一冊の編成と書名

上田市史研究会

上田市歴史文化財研究会

上田市文化研究会

上田市総合研究会

上田市歴史民俗研究会

上田市歴史文化財研究会

上田市文化研究会

上田市総合研究会

上田市歴史民俗研究会

上田市文化研究会

上田市総合研究会

上田市歴史民俗研究会

上田市文化研究会

上田市総合研究会

上田市歴史民俗研究会

上田市文化研究会

表紙 工場で働く人たち

裏表紙 ページめくり機の開発

山口芳充 西澤電機計器製作所蔵